

新医薬品が薬価収載されましたのでお知らせいたします。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
1	113	内用薬	イーケブラドライシロップ50%	50%1g	253.90	[プラスチックボトル]100g、500g	ユーシーピー ジャパン	レベチラセ タム	他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法	成人：通常、成人にはレベチラセタムとして1日1000mg（ドライシロップとして2g）を1日2回に分けて用時溶解して経口投与する。なお、症状により1日3000mg（ドライシロップとして6g）を超えない範囲で適宜増減するが、増量は2週間以上の間隔をあけて1日用量として1000mg（ドライシロップとして2g）以下ずつ行うこと。  小児：通常、4歳以上の小児にはレベチラセタムとして1日20mg/kg（ドライシロップとして40mg/kg）を1日2回に分けて用時溶解して経口投与する。なお、症状により1日60mg/kg（ドライシロップとして120mg/kg）を超えない範囲で適宜増減するが、増量は2週間以上の間隔をあけて1日用量として20mg/kg（ドライシロップとして40mg/kg）以下ずつ行うこと。ただし、体重50kg以上の小児では、成人と同じ用法・用量を用いること。	処方	2013.06.28	他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法を効能・効果とする新用量、剤型追加医薬品（新用量、剤型追加）
2	214	内用薬	イルトラ配合錠LD	1錠	130.50	瓶500錠 PTP100錠 (10錠× 10)、PTP500錠 (10錠× 50)、PTP700錠 (14錠× 50)	塩野義製薬	イルベサル タン／トリ クロルメチ アジド	高血圧症	成人には1日1回1錠（イルベサルタン／トリクロルメチアジドとして100mg／1mg又は200mg／1mg）を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。	処方	2013.06.28	高血圧症を効能・効果とする新医療用配合剤（新医療用配合剤）
			イルトラ配合錠HD	1錠	195.80	瓶500錠 PTP100錠 (10錠× 10)、PTP500錠 (10錠× 50)、PTP700錠 (14錠× 50)							

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
3	248	内用薬	ルナベル配合錠ULD	1錠	327.90	PTP 63錠 (21錠×3)	ノーベルファーマ	ノルエチステロン/エチニルエストラジオール	月経困難症	1日1錠を毎日一定の時刻に21日間経口投与し、その後7日間休薬する。以上28日間を投与1周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。	処方	2013.06.28	月経困難症を効能・効果とする新効能、新用量、剤型追加医薬品（新効能、新用量、剤型追加）
4	394	内用薬	トピロリック錠20mg	20mg1錠	20.60	100錠 (PTP10錠×10)、500錠 (PTP10錠×50)	富士薬品	トピロキソスタット	痛風、高尿酸血症	通常、成人にはトピロキソスタットとして1回20mgより開始し、1日2回朝夕に経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1回60mgを1日2回とし、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1回80mgを1日2回とする。	処方	2013.06.28	痛風、高尿酸血症を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
			トピロリック錠40mg	40mg1錠	38.90	100錠 (PTP10錠×10)、500錠 (PTP10錠×50、バラ)							
			トピロリック錠60mg	60mg1錠	56.40	100錠 (PTP10錠×10)							
			ウリアデック錠20mg	20mg1錠	20.60	100錠 (PTP10錠×10)、500錠 (PTP10錠×50)	三和化学研究所						
			ウリアデック錠40mg	40mg1錠	38.90	100錠 (PTP10錠×10)、500錠 (PTP10錠×50、バラ)							
			ウリアデック錠60mg	60mg1錠	56.40	100錠 (PTP10錠×10)							
5	729	内用薬	アラベル内用剤1.5g	1.5g1瓶	87,867.30	1バイアル	ノーベルファーマ	アミノレプリン酸塩酸塩	悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化	通常、成人にはアミノレプリン酸塩として20mg/kgを、手術時の麻酔導入前3時間（範囲：2～4時間）に、水に溶解して経口投与する。	処方	2013.3.25	悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
			アラグリオ内用剤1.5g	1.5g1瓶	87,867.30	1バイアル	SBIファーマ						

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
6	821	内用薬	イーフェンバツカル錠50 µg	50µg1錠	507.50	20錠(4錠/ シート×5枚)	帝國製薬	フェンタニ ルクエン酸 塩	強オピオイド鎮痛剤を定時 投与中の癌患者における突 出痛の鎮痛	通常、成人には1回の突出痛に対して、フェン タニルとして50又は100µgを開始用量とし、 上顎臼歯の歯茎と頬の間で溶解させる。 用量調節期に、症状に応じて、フェンタニルと して1回50、100、200、400、600、800µg の順に一段階ずつ適宜調節し、至適用量を決定 する。なお、用量調節期に1回の突出痛に対し てフェンタニルとして1回50～600µgのいづれ かの用量で十分な鎮痛効果が得られない場合に は、投与から30分後以降に同一用量までの本 剤を1回のみ追加投与できる。 至適用量決定後の維持期には、1回の突出痛に 対して至適用量を1回投与することとし、1回 用量の上限はフェンタニルとして800µgとす る。 ただし、用量調節期の追加投与を除き、前回の 投与から4時間以上の投与間隔をあげ、1日当 たり4回以下の突出痛に対する投与にとどめる こと。	劇、処 方、麻	2013.06.28	強オピオイド鎮痛剤を 定時投与中の癌患者に おける突出痛の鎮痛を 効能・効果とする新用 量、新剤型医薬品(新 用量、新剤型)
			イーフェンバツカル錠 100µg	100µg1錠	708.10	20錠(4錠/ シート×5枚)							
			イーフェンバツカル錠 200µg	200µg1錠	988.00	20錠(4錠/ シート×5枚)							
			イーフェンバツカル錠 400µg	400µg1錠	1,378.60	20錠(4錠/ シート×5枚)							
			イーフェンバツカル錠 600µg	600µg1錠	1,675.20	20錠(4錠/ シート×5枚)							
			イーフェンバツカル錠 800µg	800µg1錠	1,923.60	20錠(4錠/ シート×5枚)							
7	114	注射薬	アセリオ静注液1000mg	1,000mg100 mL1瓶	332	100mL×12バ イアル	テルモ	アセトアミ ノフェン	経口製剤及び坐剤の投与が 困難な場合における疼痛及 び発熱	下記のとおり本剤を15分かけて静脈内投与す ること。 <成人における疼痛> 通常、成人にはアセトアミノフェンとして、1 回300～1000mgを15分かけて静脈内投与 し、投与間隔は4～6時間以上とする。なお、 年齢、症状により適宜増減するが、1日総量と して4000mgを限度とする。 ただし、体重50kg未満の成人にはアセトアミ ノフェンとして、体重1kgあたり1回15mgを 上限として静脈内投与し、投与間隔は4～6時 間以上とする。1日総量として60mg/kgを限 度とする。 <成人における発熱> 通常、成人にはアセトアミノフェンとして、1 回300～500mgを15分かけて静脈内投与し、 投与間隔は4～6時間以上とする。なお、年 齢、症状により適宜増減するが、原則として1 日2回までとし、1日最大1500mgを限度とす る。	劇、処方	2013.06.28	経口製剤及び坐剤の投 与が困難な場合におけ る疼痛及び発熱を効 能・効果とする新投与 経路医薬品(新投与経 路)

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
7	114	注射薬	アセリオ静注液1000mg	1,000mg100mL1瓶	332	100mL×12/バイアル	テルモ	アセトアミノフェン	経口製剤及び坐剤の投与が困難な場合における疼痛及び発熱  通常、2歳以上の幼児及び小児にはアセトアミノフェンとして、体重1kgあたり1回10～15mgを15分かけて静脈内投与し、投与間隔は4～6時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日総量として60mg/kgを限度とする。ただし、成人の用量を超えない。  <乳児及び2歳未満の幼児における疼痛及び発熱> 通常、乳児及び2歳未満の幼児にはアセトアミノフェンとして、体重1kgあたり1回7.5mgを15分かけて静脈内投与し、投与間隔は4～6時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日総量として30mg/kgを限度とする。	(前ページより続く) <2歳以上の幼児及び小児における疼痛及び発熱> 通常、2歳以上の幼児及び小児にはアセトアミノフェンとして、体重1kgあたり1回10～15mgを15分かけて静脈内投与し、投与間隔は4～6時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日総量として60mg/kgを限度とする。ただし、成人の用量を超えない。  <乳児及び2歳未満の幼児における疼痛及び発熱> 通常、乳児及び2歳未満の幼児にはアセトアミノフェンとして、体重1kgあたり1回7.5mgを15分かけて静脈内投与し、投与間隔は4～6時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日総量として30mg/kgを限度とする。	劇、処方	2013.06.28	経口製剤及び坐剤の投与が困難な場合における疼痛及び発熱を効能・効果とする新投与経路医薬品（新投与経路）
8	249	注射薬	リキシミア皮下注300µg	300µg3mL1キット	6,972	300µg/3mL×2本	サノフィ	リキシセナチド	2型糖尿病 ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。 ①食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤（ピグアナイド系薬剤との併用を含む）を使用 ②食事療法、運動療法に加えて持効型溶解インスリンまたは中間型インスリン製剤（スルホニルウレア剤との併用を含む）を使用	通常、成人には、リキシセナチドとして、20µgを1日1回朝食前に皮下注射する。ただし、1日1回10µgから開始し、1週間以上投与した後1日1回15µgに増量し、1週間以上投与した後1日1回20µgに増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1日20µgを超えないこと。	劇、処方	2013.06.28	2型糖尿病を効能・効果とする新有効成分含有医薬品（新有効成分）
9	399	注射薬	オレンシア皮下注125mg シリンジ1mL	125mg1mL1筒	27,171	1シリンジ	ブリストル・マイヤーズ	アバタセプト（遺伝子組換え）	関節リウマチ（既存治療で効果不十分な場合に限る）	通常、成人には、投与初日に負荷投与としてアバタセプト（遺伝子組換え）点滴静注用製剤の点滴静注を行った後、同日中に本剤125mgの皮下注射を行い、その後、本剤125mgを週1回、皮下注射する。また、本剤125mgの週1回皮下注射から開始することもできる。	劇、処方、生物	2013.06.28	関節リウマチ（既存治療で効果不十分な場合に限る）を効能・効果とする新投与経路、新剤型、新用量医薬品（新投与経路、新剤型、新用量）

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
10	399	注射薬	ボンビバ(静注1mgシリンジ)	1mg1mL1筒	4,918	1 シリンジ、10 シリンジ	中外製薬	イバンドロン酸ナトリウム水和物	骨粗鬆症	通常、成人にはイバンドロン酸として1mgを1カ月に1回、静脈内投与する。	劇、処方	2013.06.28	骨粗鬆症を効能・効果とする新有効成分含有医薬品(新有効成分)
11	429	注射薬	パージェタ点滴静注420mg/14mL	420mg14mL1瓶	231,866	1バイアル	中外製薬	ペルツズマブ(遺伝子組換え)	HER2陽性の手術不能又は再発乳癌	トラスツズマブ(遺伝子組換え)と他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人に対して1日1回、ペルツズマブ(遺伝子組換え)として初回投与時には840mgを、2回目以降は420mgを60分かけて3週間間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。	劇、処方、生物	2013.06.28	HER2陽性の手術不能又は再発乳癌を効能・効果とする新有効成分含有医薬品(新有効成分)
12	214	外用薬	ピソノテープ4mg	4mg1枚	89.30	70 枚((1 枚×7)× 10)	トーアエイヨー	ピソプロロール	本態性高血圧症(軽症～中等症)	通常、成人にはピソプロロールとして8mgを1日1回、胸部、上腕部又は背部のいずれかに貼付し、貼付後24時間ごとに貼りかえる。なお、年齢、症状により1日1回4mgから投与を開始し、1日最大投与量は8mgとする。	処方	2013.06.28	本態性高血圧症(軽症～中等症)を効能・効果とする新有効成分含有医薬品(新有効成分)
			ピソノテープ8mg	8mg1枚	123.00	70 枚((1 枚×7)× 10)							

- ・薬価については官報をご確認下さい。
- ・承認段階の情報につきましては、適宜、日本薬剤師会雑誌別冊の日薬医薬品情報に掲載しておりますのでご参照下さい。

- ・薬価に関する情報は「官報」でもご確認下さい。
- ・承認に関する情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ」の新薬の承認に関する情報もご参照下さい。
- ・医薬品薬価マスターに関する情報は「診療報酬情報提供サービス」をご参照下さい。
- ・医薬品コードに関する情報は「薬価基準収載医薬品コード表(MEDIS-DC提供)」をご参照下さい。